

昨年、港区が港区立の中学三年生の修学旅行の行き先を、京都奈良方面からシンガポールに変更すると決定した。それは英会話能力を発揮し、異文化体験を通じて国際理解を深めてほしいという理由かららしい。これは全国的にニュースになり、あるテレビ番組では賛否両論となっていた。しかしなぜそのようなになっているのか、私には理解できなかった。

そのあと、費用のほとんどを全て港区が負担してくれると知った。賛否両論が生じたのは、その費用は港区に住む人が納めている税金から出されるからだ。つまり税金の使い道について賛否が分かれたのである。私は今回のシンガポール旅行は税金で行かせてもらってありがたいと思っている。しかし、大切な多額の税金をそれに使ってしまったいいのだろうかとも考える。もし中学生に使ってくれるのなら、古くなった学校の修繕や設備の拡大に使ってほしいと思った。

私はシンガポールへの修学旅行が決まった頃から税金について学校で学ぶようになった。それまで私にとって税金とは「ただ払うもの」だった。お店で買い物をする時消費税を払ったし、旅行で温泉に行くと入湯税を払った。父は都税、区民税、所得税、自動車税、固定資産税なども払っている。私は小さい頃、道路や橋のお金を誰が出しているのだろう、公園の遊具や図書館の本は誰が買ってくれたのだろう、などと思ったこともあった。

しかし、公民の授業で国の財政や税金の仕組みと役割を勉強して、それらは全て税金でまかなわれていることを知り、私たち子供がどういう場面で税金にお世話になっているか分かった。私たち子供が、病気になって病院を受診する時も、学校で教科書が配布される時もそうだった。税金は他にも、上下水道の設備から介護、年金まで、様々な公共サービスを運営するのに使われているそう。そのおかげで私達は健康で豊かな生活を送ることができる。どんな大金持ちでもその全てを支えることは出来ないが、一人一人が税金を納めることによって、一人ではできない大きな支え合いが生まれている。納税とは私達を助けているものなのだとわかった。

私の将来の夢は医師になることだ。医師になって目の前の患者さんをできるだけ救いたい。ただそれだけではなく、その後ろにいる大勢の人たちを支えることができる立派な大人にもなりたい。これからますます少子高齢化社会になっていくと聞いている。税金で誰もが住みやすい街づくりをすれば、高齢者はいつまでも健康で安心して老後を過ごせるだろうし、少子化対策にもなるだろう。そのためにも、一国民として税についてもっとよく調べ、今自分に何かできることがあるかを考え、行動に移したいと思う。そして、私は今税金の恩恵をたくさん受けている側であるので、将来大人になって、きちんと納税し他の納税者と共に社会に大きく貢献したい。